

東陵校下のまいぶんマニュアル

☆☆東陵校下ってこんなところ！☆☆

地形／東陵校下は、梯川流域の平野と、その平野を見渡す台地・丘陵にあります。

平野には弥生時代以降、肥よくな水田地帯が広がります。台地・丘陵には弥生時代の終わり頃、卑弥呼の時代に戦いにそなえたむらがつくられ、古墳時代になると平野をおさめた有力な豪族が古墳を築くようになりました。

ぜひ授業で紹介してほしいポイント！



地形の説明

年表に登場する遺跡／亀山玉造遺跡（軽海町）

おもな時代は弥生時代～古墳時代。

教科書の小単元は「縄文のむらから古墳のくにへ」。

ポイント①＝高台につくられた玉つくりのむら。

ポイント②＝緑色がきれいな小松産碧玉の管玉は、



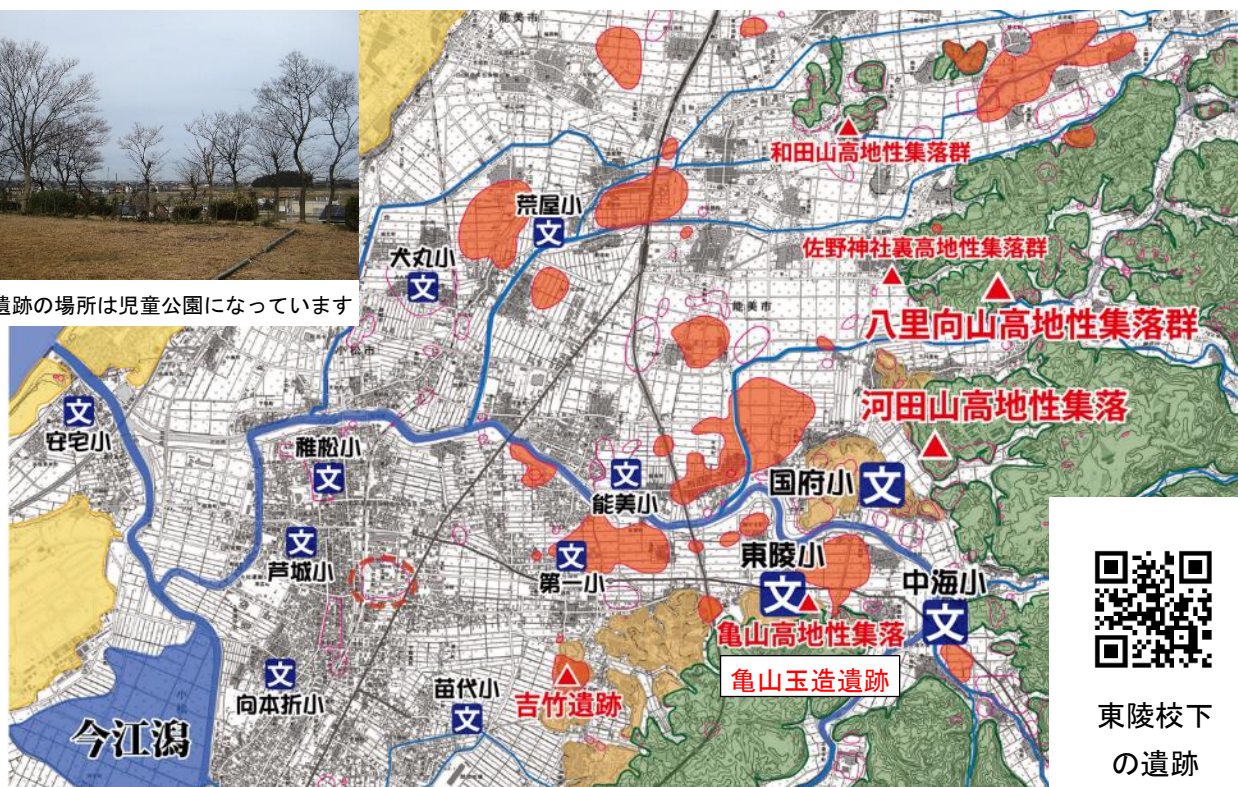
出土した弥生土器と管玉の材料

芦城校下にあった弥生時代のむら・

八日市地方遺跡でつくられ始め、弥生時代の終わり～古墳時代に東陵校下でもつくられます。加賀市や金沢市の同じ時期の遺跡では、腕輪などの宝飾品も加工され、やがては大和の大王を魅了します。



亀山遺跡の場所は児童公園になっています



東陵校下の遺跡

● 平野に広がったムラ

▲ 高地性集落＝高台につくられた防御性の高いむら

遺跡の位置